

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	比較居住文化小委員会	主 査 名：前田 昌弘 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)	委員長名：広田 直行 主 査 名：清水 郁郎
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>人・物・情報が世界規模で行きかう現在、それらの要因に影響を受け、居住の質も劇的に変化している。こういった状況下、フィールドワークによる居住文化の研究および、それをもとした多様な展開を推進し、建築学の発展に寄与する。各年度とも以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に根ざした計画手法の集積および、その研究 2. フィールドワークによる居住文化研究に関する情報の発信 3. フィールドワーク事例の見学会の開催 4. フィールドワークを主体とした研究を行ってきた研究者による、研究の視座および方法論を紹介する書籍の刊行準備 5. 上記目的にそった拡大小委員会および公開研究会の開催 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査 前田昌弘 (京都府立大学大学院生命環境科学研究科) 幹事 栗原伸治 (日本大学生物資源科学部) 幹事 本間健太郎 (東京大学生産技術研究所) 委員 アルマザン・ホルヘ (慶應義塾大学理工学部) 稲垣淳哉 (エウレカ/早稲田大学芸術学校) 上北恭史 (筑波大学芸術系) 内海佐和子 (室蘭工業大学大学院工学研究科) 北原玲子 (日本女子大学) 小林広英 (京都大学大学院地球環境学堂) サキャ・ラタ (ハウジングアンドコミュニティ財団) 清水郁郎 (芝浦工業大学工学部) 高田 静 (Hot Butter Design Office) 那須聖 (東京工業大学大学院総合理工学研究科) 濱定史 (山形大学工学部) 山田協太 (筑波大学芸術系)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2019 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s25/index.html

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 拡大委員会「継続的建築フィールドワークが拓く未来」 参加者数 15 名 2. 公開研究会「フィールド・ベースド・エンジニアリングの諸相 (建築フィールド学研究 その1)」 参加者数 27 名

<p>大会研究集会</p>	<p>1. 建築計画部門 OS「建築フィールドワークの拡張：居住文化の再発見と再構築を目指す近年の動向」 参加者数 約 30 名</p>
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>以下の通り、当初の活動計画における目標は概ね達成されている。</p> <p>1. 拡大委員会、公開研究会の企画・実施等を通じてフィールドワークおよび居住文化研究について活発な議論を行い、知見をさらに深めた。</p> <p>2. 公開研究会「フィールド・ベースド・エンジニアリングの諸相（建築フィールド学研究 その1）」を開催し、「領域の拡張」、「異分野の専門家や地元主体との協働」、「実践への展開」等をキーワードとして建築フィールドワークの発展の可能性を展望し、次期刊行物「建築フィールド学—建築フィールドワークの拡張と実践への展開（仮）」のアイデアを具体化した。</p> <p>3. 研究会は、「建築フィールド学研究」として今後シリーズ化し、刊行物の企画と連動させることで、内容の充実化および刊行の迅速化を図る体制を構築した。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>次期刊行物の準備がやや遅れている。次年度以降は、研究会との連動を強化し、また、出版 WG の設置によって遅れを取り戻す予定である。</p>